



TITLE:

花山の此の頃

AUTHOR(S):

---

CITATION:

花山の此の頃. 天界 1933, 14(152): 76-76

ISSUE DATE:

1933-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/165444>

RIGHT:

午後2時45分、バルコフ教授に見送られ、ボストン北停車場から出発し、同3時14分に Salem 着。十年前 Morse 博士を訪問した(天界第44號第329頁)ことなど思ひうかべながら、Ocean Terrace に Adams 夫妻を訪ねた。日曜の午後なので、誠にノンビリとして、話は盡きない。日本の話、米國の話、日食の話、平和運動の話……

夕食を三人きりで頂いて、見送られ、午後8時39分發の列車で、ボストンへ歸つたが、オルバニへ出發するまで、少しの時間があるので、大急ぎで、ケンブリヂ市 Follen Street の N. H. Black 邸を見舞つた。しかし、時刻が餘り遅いので、バジャマ姿の主人博士に一言の挨拶を残したのみで、直ぐボストン南停車場にかけつけた。

午後10時15分の終列車で、割引切符の有効な間に、一路オルバニへ。

(つづく)

## 花山の此の頃

大毎社と協力して花山天文臺と本會とは十月末から 流星觀測の全國的計畫を立て、十一月11日からプロの實行期に入りましたが、十月末頃、早くも古畑君の獅子座流星發見あり、火球も二つ三つ現はれて、急に多忙となりました。十一月11日からは、全國各地の觀測班が競争的に豊富な觀測報告を送つて下さるので「流星觀測本部」ではてんてこ舞ひです。御かげで、思ひがけない地方に多くの天文ファンが増しました。本誌一月號は流星の特輯號です。

急報も、プレテンも、どしどし増刊され、花山の編輯部も大多忙です。——急報は今後全く東亞天文協會の手を離れ、専ら天文臺のみで取り扱はれることになりました。そして、來年初からは實費料金も變ります。2 錢の切手を貼つた封筒(あて名を表記したもの)に、一枚 1 錢の割合で紙代を拂ひ込んで下さつた人だけに發送することとなります。各自御注意下さい。

九月10日から山本、稻葉、高城三氏は花山の國際經度觀測のため、毎夕毎曉奮闘してゐられます。終るのは十二月15日ですが、それまでは大馬力で、90ミリの子午儀は、百パーセントの能率を擧げてゐます。此の大事業の副産物として、子午線館内外は言ふまでもなく、無線室も、時計室も、電池室も、高壓低壓の電線系統も、皆見ちがへるやうに改良されました。

來年一月1日からは、協會の事務室も全く天文臺へ移ります。